

2024 年度 学校法人 三幸学園 広島医療秘書こども専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 藤田 高広

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョン、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え方続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【重点課題】

学校に行きたいと思える学校づくりをする。

【指導強化項目】

・「なぜ」を説明した動機付けの徹底 ／ 授業実践ガイドブックに沿った授業運営

【数値目標】

・退学率(5%、13/267 人)

■結果

【重点課題】

・退学率の低減⇒○ ・精皆勤率の上昇⇒○

全体的な数値は昨対プラスに着地でしたが、欠時不良者や公欠補講者は増加する形となつた。

【指導強化項目】

・授業や行事参加への動機づけや、欠席・遅刻者へのタイムリーな指導を行つたが、クラスによって欠時不良者や公欠補講者は依然として多くいる形になつた。

・授業実践ガイドブックに沿った授業運営に関して、教職員全体で意識できるよう行うことはできた。

【数値結果】

・精皆勤率：医療秘書科 53.1(昨対+2.2)／保育科 57.8(昨対+15.8)／こども総合学科 57.0(昨対+4.4)

・退学率(2.97%、9/267 人) ⇒医療秘書科の退学率が昨年度と比較して現象。全体として主な要因は学校生活不適応(目標喪失)である。今まで5,6ヶ月に集中していた退学がまんべんなく出るようになった。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・現存の理念・目的・育成人材像などは明確に決められており、情報公開もなされている。
- ・社会経済のニーズや業界のニーズに向けた方向づけについては、医療事務分野においては IT 化も促進されていく中で、対応ができる人材をより多く輩出する必要がある。
- ・保育分野においてはこどもに関わる社会課題も多くあるため、長く働く保育士の養成をする必要がある。

② 今後の改善方策

- ・IT 化など、時代の変化に合わせて学校教育により必要なものを集めていかなければならない。
- ・病院、クリニック、園、施設などと情報共有を行い、業界の動向や求める人材像を正確に捉える。

③ 特記事項

- ・特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事・給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・様々なツール(Sankogate、Google Classroom、Teams 等)の活用はできているものの、業務効率化のために活用しきれていない。
- ・スケジュール管理の WEB 化を教職員全体で導入できておらず、全体のスケジュールの見える化が図れていない。

② 今後の改善方策

- ・教員間のクラス状況報告などを WEB アンケートとして入力できるようにするなど、タイムリーに入力、共有、集計ができるようにする。
- ・スケジュールを Outlook にて統一していくことを発信し、使い方についても有識者から伝えることで、早期浸透を図る。

③ 特記事項

- ・特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施さ れているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われて いるか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位 置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマ ネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上 のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・新任講師に向けての最低限の研修会は行っているが、実際の授業のフォローアップ体制はまだ改善の余地がある。
- ・職員研修についてオンデマンド動画などを使用した効率の高いものが多いが、授業力の向上の為に授業を見学、評価する体制は不十分である。

② 今後の改善方策

- ・新任講師に対しては定期的に授業シラバスの確認など、授業の方向性が間違っていないかを確認していく。
- ・授業見学を教員間でを行い、改善策を考え、そして良い事例は取り入れられるような共有の場を作る。

③ 特記事項

- ・特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・時期を問わず様々な時期で退学を検討する学生が増えており、対策が困難。
- ・通信制高校出身の在校生も増加し、高校とのギャップを埋めるための施策が不足している。

② 今後の改善方策

- ・先輩たちに悩み相談ができる場所(スタプロプラス)を設置し、退学検討前にストップをかけられるような体制を作る。
- ・勉強面での不安を抱える学生に向けての勉強会(スタプロプラス)の場を作り、授業への不安を取り除く場を定期的に設置する。
- ・姉妹校との連携を図り、通信制高校出身者の理解を深める。

③ 特記事項

- ・特になし

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・就職サポートに関しては、美容医療など新設学科コースの就職先や、保育関連の施設の就職先など、少数でもニーズのある就職先の確保が不十分。
- ・卒業生用のアプリや LINE を通して学校からの発信はしているものの、活用事例はなし。
- ・高校との連携は、こちらが発信するものとしてはなかなかできていない。

② 今後の改善方策

- ・積極的に就職先開拓を行い、学生のニーズに合った就職先を展開する。
- ・同窓会の場なども活用し、卒業生が気軽に学校へ相談できるようなつながりを作る。
- ・姉妹校をはじめ、高校との連携を強めるため、積極的な出張模擬授業などができる環境を作りたい。

③ 特記事項

- ・特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・医療秘書科の学外実習施設の確保に苦戦している。

② 今後の改善方策

- ・現場に足を運び、関係構築に力を入れる。

③ 特記事項

- ・特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・大学を検討する学生が増え、医療事務を目指す学生も年々減少しており、魅力が伝えきれていない。
- ・保育については、業界の魅力を伝えられるよう、卒業生と連携するなどの策がまだ足りていない。

② 今後の改善方策

- ・医療事務の魅力について、卒業生から直接伝える機会をとる、もしくは仕事の種類の幅広さや、各仕事の魅力を伝えることで、志す学生の増加を図る。
- ・保育士、幼稚園教諭について実際に働いている現役の卒業生を呼び、高校生と話す機会を作る。

③ 特記事項

- ・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・引き続き教職員へのコンプライアンスに対する理解に努める

③ 特記事項

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・医療秘書科についてはボランティア活動の支援はできていない。
- ・地域のこどもたちを対象とした「こどもんクラブ」を行っているが、頻度や内容に関してはまだ改善の余地がある。

② 今後の改善方策

- ・何か地域貢献できることや職業に繋がることがあれば機会提供を行いたい。
- ・アンケート結果をもとに、「こどもんクラブ」の内容・頻度について引き続き検討していく。

③ 特記事項

- ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

沢山のご意見をいただき、専門学校として「やる事」が見えてきた。

聞いて終わりではなく、少しずつ、ひとつずつ改善をしていきたい。保育分野、医療分野の現場のお話を聞き、それぞれ地域貢献できるようにし、学校運営の部分に活かしていきたい。